

巻頭言

本校では、平成 30 年度から「キャリア発達を促すためのカリキュラム・マネジメント～新しい職業学科として社会に開かれた教育課程の構築を目指して～」という研究主題の下、3 カ年計画で取り組むこととし、校内研究がスタートしました。

課題研究では、各学年で作成した単元計画を基に、教科ごとに全職員授業研究を行いました。計画を立案する際には、協同学習をベースとしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れ、授業実践後には、MT・STともに「主体的・対話的で深い学び」につなげる指導ができたか「振り返りレポート」を作成し、教職員一人一人の授業力向上を図ることができました。

プロジェクト研究では、各教科担任が作成したシラバスを基に、全学年の単元配列表を作成しました。また、単元配列表と単元計画を基に授業実践をふまえて、単元配列表との整合性を確認し、必要に応じて今養版キャリアプランニング・マトリックスの加筆修正を行いました。さらに、本校では、平成 29 年度より卒業後の社会生活に向けたより実践的な学びのために、「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」を設立して学習を進めていますが、今年度は商品開発や仕入れ販売だけではなく、新たに模擬株価式会社委員会を立ち上げ生産と販売の計画、決算に至る一連の流れについて検証しました。

調査研究では、進路指導部主体で「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」をはじめ、様々な関係機関や関係組織と連携しながら、卒後支援などを通して卒業生の実態（成長と課題）に関する情報や雇用環境等の変化に関する情報を集め、本校の教育活動に足りない要素や今後必要となる要素（在学中に身に付けさせるべき、新しい時代に必要となる資質・能力）を分析しました。

寄宿舎では、舎での生活や指導を通じて、基本的生活習慣や充実した余暇が確立されることで、将来、社会に出た時に、自分らしい生き方を選択するための能力や態度を身に付けることができると考え、「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」を主題として設定しました。

今年度の研究では、事例研究を行い、研究主題に関わる生活習慣や余暇についての対象生徒を抽出し、生徒の実態をふまえて、それぞれの課題に対してどのようにアプローチしていくかを考察しました。

校内研究の推進に当たっては、学校評議員の方々や後援会の方々、卒業生が働く事業所の方からの貴重な御意見もいただきながら、本校の教育活動を進め、本研究にも反映させてきました。重ねて感謝申し上げます。

本研究は、知的障がい教育におけるキャリア教育の創造という大きなテーマに「社会に開かれた教育課程」という観点と「生活指導」の観点から迫ろうとするものです。

是非、忌憚のない御意見と御助言をいただければ幸いです。また、今後とも本校への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2 年 3 月

北海道今金高等養護学校長 坪 井 克 彦